

8 健聴者が気付かないコミュニケーションの壁

～聴覚障がい者の社会環境を考える～

○開催目的

聴覚障がい者の離職率の高さの背景には、健聴者中心に構築されている社会のシステムに順応できない『壁』の存在が見受けられ、その壁はコミュニケーション由来の課題だと思われます。よって、聴覚障がい者のよりよい社会環境を構築するために、どのような取り組みが必要か、聴覚障がい者と健聴者で話し合うことで新しい考えを生み出すことを目的としました。

○開催日時

2月13日(土) 10:40 ~ 13:10

○参加者数・出演者・団体

参加者数：33名(参加者28名、出演者2名、スタッフ3名)

出演者：伊佐治 正幸さん(株式会社リコー / リコー手話サークル講師)

伊藤 芳浩さん(NPO法人インフォメーションギャップバスター 理事長)

○プログラム内容・成果と課題

◆プログラム

1 登壇者の紹介

- ・活動紹介
- ・この会に期待することなど

2 グループワーク①

- ・参加者の自己紹介
- ・この会に何を期待してきたか
- ・参加者が課題に感じていることを共有

3 グループワーク②

- ・聴覚障がい者と健聴者でどのような環境になればよいかを話し合う
- ・グループごとに発表

◆成果と課題

継続の必要性が得られたことが、今回の分科会において最大の課題でもあり成果でもあると思います。アンケート結果の中には「消化不良」「時間が無い」などの意見が見受けられましたが、2時間半の中でほとんどワークに費やした時間が、参加者にとっては短く



感じたり、十分に話せていないという結果になりました。この結果について抱えている課題の大きさや深さを感じるとともに、議論が活発に行われた裏返しだと思えます。このような場の設定が必要であるということが確認できたので、成果だと感じています。一方で、現段階では健聴者と一緒に、聴覚障がい者における職場のより良い環境構築について話し合うには、課題の共有がまだ不十分だと感じました。まずは、この企画を通して知り合えた人達とともに取り組みの継続をし、今一度、課題の抽出に注力し、健聴者との共有を図りたいと思います。

○参加者の声

- 職場で起こりうる問題、課題を知ることができた。聴者とろう者のバランスが取れているとずっと良いと感じました。
- 気付くことの多いワークができました。ですがもっと時間を頂き、聴こえない方と聴こえる人双方の理解をもっと進めて、更なる気づきと、良い解決策を見つける事ができると思います。
- 限られた時間の中で、時間に追われながら進めていってしまい、内部の消化に不十分な面が残ったように思う。
- 健聴者が感じている思いと、ろう者が健聴者はこう感じているだろうとする思いは違う事、あまり気にしなくても良いのだと気づき、少しラクになりました。とてもいいディスカッションができ、良かったです。

○担当者・記録

《担当》	高橋 義博（調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター）
	上岡 夏海（社会福祉法人白十字会 白十字ホーム）
	岡部 沙耶（東京ボランティア・市民活動センター）
《記録》	高橋 義博（調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター）